

〔そのとき、イエスは十一人の弟子に現れて、〕言われた。「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。信じて洗礼を受ける者は救われるが、信じない者は滅びの宣告を受ける。信じる者には次のようなしるしが伴う。彼らはわたしの名によって悪霊を追い出し、新しい言葉を語る。手で蛇をつかみ、また、毒を飲んでも決して害を受けず、病人に手を置けば治る。」/主イエスは、弟子たちに話した後、天に上げられ、神の右の座に着かれた。一方、弟子たちは出かけて行って、至るところで宣教した。主は彼らと共に働き、彼らの語る言葉が真実であることを、それに伴うしるしによってはっきりとお示しになった。-マルコ 16 章-

十字架の逆説



人となってこられた神キリストが、人となって天に昇られた--- それは私たち人間の未来の姿を示す出来事でした。

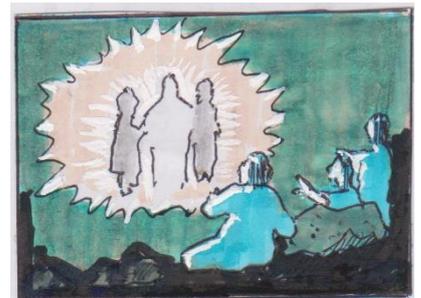
この出来事以前、人類が考える未来は、誰の先にも待つ「死の壁」に阻まれ、滅びに向かうしかありませんでした。その人類のために神が計画してこられた準備は、イエスの「十字架の死」によって完了し、救いは主の昇天後、イエスに変わる弁護者として送られる「聖霊」を待つのみとなりました。救いを実現させてくださるのは聖霊の力によるからです。

聖霊は、狼の中の一匹の子羊として派遣される弟子たち(私たち)に、世界の果てに至るまでイエスの証人とさせる力を与え、また世界を一つにさせる力があるのです。この聖霊をイエスが「エルサレムを離れないで待ちなさい」と指示なさった意味は大切です。

「エルサレム」とはイエスの受難の場です。誰もが逃げて避けたい場ですが「この場」で待てと言われる意味は？

ご存じのように聖霊は「自我」が消失した空の器に入ってくる「愛の霊」です。一方、「十字架」は拘束された体(自我)を捨てて、心で神に向かう場です。イエスはこれを「聖霊を受ける場」とされ、私たちに十字架を厭わないで「変容」の山で示したあの栄光に力づけられて、ご自分の後に続くよう、道を示されたのです。

イエスの心をまだ理解していない弟子たちは、イエスの指示を、自分たちが期待していた「イスラエルのために国を建て直して下さる」政治的な開放の時と理解するのです。しかし神が計画された「人類の救い」は、そうではなく、悪霊の支配下にある人間の本性(自我)からの、聖霊による開放、いわゆる「この世からの脱出」でした。十字架の逆説は 聖霊を受けるまで、彼らには知る由もなかったことでしたが、聖霊を与えられて弟子たちは、死をも厭わない宣教者にされたのです。



彼らが伝える福音を「信じる者は救われ、信じないものは滅びの宣告を受ける」と、一見、厳しいイエスの言葉は、いわゆる、差し伸べられた「救いの箱舟」に乗り込むか乗り込まないかは、私たちの自由の選択に任せてくださった神の「愛のラブコール」と受け取りましょう。

救いは自分を頼みとせず、自分の無力さを知って心砕かれた貧しい者に与えられる聖霊の恵みなのです。